



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言 歯学教育者ワークショップ 開催される

歯学教育推進室 片岡 龍太



医学・歯学・薬学・保健医療学教育者のためのワークショップが、7月30日(火)、31日(水)に東京都府中のセミナーハウス クロス・ウエーブ府中で開催されました。歯学部のテーマは「コンピテンシーを達成するためのカリキュラム再検討Ⅱ」で、昨年1年、2年次のカリキュラム検討を行いました。今回は主に3年次の検討を行いました。参加者は山本教授、真鍋教授、長谷川教授、岩佐准教授、代田教授、美島教授、井上紳教授、弘中教授で、タスクは榎歯学部長、飯島教育委員長、片岡教育推進室長、荒木教授、坂井講師、森崎講師でした。4学部混成グループのテーマは「教育効果を高めるための方策」で、歯学部からは高見教授が参加し、特に初年次に学生が身につけておくべきことについて検討しました。

昨年は歯科病院の特定共同指導と日程が重なり、基礎系教員のみで検討をおこなったので、分野別認証受審の際に、特に勘案する事項である統合型カリキュラム(水平統合と基礎・臨床の垂直的統合)について、最初に高木副学長に説明していただきました。次に昨年のWSでコンピテンシー獲得のためのマイルストーンとして、Phase1は基礎歯科医学総論レベル、Phase2はCBT・OSCEレベル、Phase3はiOSCAレベルコンピテンシー・国家試験出題基準レベルとし、Phase1のマイルストーンをD2終了時に実施する基礎科目の総論授業の評価と決定した経緯の説明がなされました。

現行の教育カリキュラムでは、基礎歯学の知識が不足した状態で臨床歯学の履修を行うことや、同一

科目の講義と実習が異なる時期に行われているために学びにくいことを学生アンケートの結果などから確認し、カリキュラムの改善を検討しました。今後はWSのプロダクトをもとに、3年次の時間割作成の責任者である高見教授を中心に時間割原案を作成していただき、教授会で検討を行う予定です。基礎と臨床の垂直的統合を進めるために、「症例基盤型学修」を導入や、基礎科目の授業に臨床系科目の教員が参加する授業のあり方を検討することになりました。さらに学生が自ら目標を設定して自ら学ぶアクティブ・ラーニングを推進し、電子ポートフォリオをさらに効果的に活用する方法を検討することになりました。

近年学生が学ぶ内容は急激に増え、授業コマ数の増加に伴い学生休暇期間は減り続けています。授業コマ数を減らせるようにアクティブ・ラーニングを本格的に導入すべき時期にきていると思います。アクティブ・ラーニングの実際について教員に周知を図るために、医学教育学教授の泉 美貴先生に9月18日(水)18時から「授業をアクティブ・ラーニングにしてみよう!」というテーマで講演していただくことになりました。オール昭和の活発な討議の後、小口理事長から各学部がこれから取り組むべき内容についてのお話を拝聴し、カリキュラム改革に取り組む意欲が高まったところで学事部も含め100名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。昭和大学の重要な課題とその解決のプロダクトに触れ、それがすべて来年から実施されるこのWSはまさに昭和大学の推進力だと思いました。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。

受賞

広報委員長 中村 雅典

・第30回日本老年歯科医学会学術大会 優秀ポスター賞「終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討」 星野 大地(地域連携歯科)

行事予定

広報委員長 中村 雅典

日時	行事
8月4日	歯学部オープンキャンパス
9月14日	歯学部薬学部入試説明会
9月26日	大学院秋季修了式
10月5日	富士吉田父兄会

昭和大学教育者のためのワークショップ P(アドバンスコース)に参加しました

口腔病理学教室 美島 健二

7月30日、31日の2日間にわたり実施されました第24回昭和大学教育者のためのワークショップ



(アドバンスコース)に参加しました。本年度は、これまで行われていた葉山のIPC生産性国際交流センターから場所を移し、府中市にあるクロス・ウェーブ府中での開催となりました。

医・歯・薬・保健医療学部それぞれの教員から構成されるワーキンググループと4学部の教員から構成されるワーキンググループの計5つのグループがそれぞれの課題に取り組み議論を重ねました。

歯学部のワーキンググループは、昨年度からの継続的な課題である「コンピテンシーを達成するためのカリキュラム再検討Ⅱ 3年次のカリキュラム検討」に取り組みました。具体的には、先行すべき基礎歯学の授業が関連する臨床歯学の授業より遅れて実施されるために生じる学修効率の低下を解消するために、カリキュラムの順序性を見直しが行われました。加えて、現行のカリキュラム全体に対する見直しも行われ、これまで以上に効率的なアクティブ・ラーニングの運用による授業内容のスリム化などについても多くの議論がなされました。今回の検討により、歯学部の教育カリキュラムが社会のニーズにより即した歯科医師の育成に役立つものとなることが期待されます。

昭和大学教育者のためのワークショップ P(アドバンスコース)に参加しました

歯周病学教室 山本 松男



7月30-31日、府中のクロス・ウェーブというセミナーハウスで、第24回昭和大学歯学教育者ワークショップが開催されました。四学部プラス四

学部混成の5チーム同時開催でした。歯学部のテーマは「コンピテンシーを達成するためのカリキュラム再検討Ⅱ」でD3を中心に検討をしました。歯学部はチーム医療、アーリーエクスポージャー、スパイラル教

育などをキーワードとしたオーラルフィジシャンコースを中心に先進的な教育スタイルを構築して、急速な社会変化に対応できる歯科医師の教育に素晴らしい成果を上げてきました。しかし一方で学生が学ぶ内容の過多や重複の解消、基礎と臨床の順序の再検討などの必要性が出てきていました。今回は代田、真鍋、長谷川、岩佐、井上(紳)、美島、弘中(敬称略)の各分野から代表者に加え、タスクフォースとして榎学部長、飯島教育委員長、荒木、片岡、坂井の各先生が会しました。昨年度のD2カリキュラムの改革に引き続き、薬理学や微生物学の講義・実習を臨床科目の前に移動する即効性のあるプランに加え、基礎と臨床の教員による融合講義の構築など、垂直的・水平的統合のより一層の推進に大きな成果となりました。さらに、アクティブ・ラーニングの推進、社会の変化に対応するように学外実習の見直しなどを今後検討していくことを話し合いました。

第30回日本老年歯科医学会学術大会にて、優秀ポスター賞を受賞致しました

地域連携歯科 星野 大地



6月6日、7日、8日に宮城県仙台市で第30回日本老年歯科医学会学術大会が開催されました。私は、コンペティション演題として「終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討」という演題でポスター発表を行い、優秀ポスター賞に選出させて頂きました。このような栄誉ある賞を受賞できましたこと

を大変嬉しく思います。受賞式では、佐藤裕二理事長(本学高齢者歯科学講座教授:写真右)より表彰状を授与して頂きました。本発表では、介護老人福祉施設の経口摂取が可能な重度要介護高齢者を対象に、簡易な摂食嚥下機能評価が1年間の死亡発生と関連することから、終末期ケアプランを見直すきっかけとなる可能性を報告させて頂きました。今大会は、「食べる力を支える老年歯科医学」というメインテーマであり、発表を通じて口腔機能と食支援の重要性を再認識致しました。今回の受賞を励みに、より一層研究活動に邁進していく所存です。本研究・発表にあたり、ご指導頂きました地域連携歯科の丸岡靖史教授、田代マイヤース三恵准教授、口腔衛生学の弘中祥司教授、東京都健康長寿医療センター研究所の諸先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

アジア太平洋歯科学学生会議で発表しました

歯学部 4年 田中 佑樹



令和元年 8 月 1 日から 5 日、タイ・バンコク (Chulalongkorn 大学/Mahidol 大学)で開催されたアジア太平洋歯科学学生会議(APDSA)に参加しました。参加学生が研究発表を行いその評価を競う Scientific Research Competition に参加し、「Gene expression profiling in Peripheral Blood Mononuclear Cells treated with zoledronic acid」の演題で発表いたしました。発表はとても緊張しましたが、英語で自分の考えを伝えることはとても楽しく、良い経験となりました。また、アジアの他の国々の歯学部生と、自国の授業やそのカリキュラム、研究の話ができ、とても良い刺激となりました。今回の参加および発表に際し、ご指導賜りました口腔生化学講座、上條竜太郎先生、山田篤先生、笹清人先生、ならびに国際交流センター、橋本みゆき先生、Michael W. Myers 先生、平泉由香先生をはじめ、ご協力いただきました全ての方々から感謝申し上げます。



トリサクティ大学の学生が来学しました

国際交流担当 桑田 啓貴

8 月 2 日金曜日、インドネシアのトリサクティ大学から歯学部の学生が歯科病院見学に訪れました。トリサクティ大学は首都ジャカルタの大規模総合大学でインドネシアでは最大です。歯学部は大学創設時からあり、昭和大学と同じ古さがあるとのことでした。歯学部部長 Tri Erri Astoeti は歯科補綴学馬場教授とも長年懇意にされ、過去に本学を訪れています。

今回、訪れたのは 2 年生 3 年生の学生および引率教員(Dr.Abdu, 歯周病科)の合計 20 人でした。午前、昭和大学紹介を国際交流センターのマイク先生、橋本先生、平泉先生に行っていただき、その後インドネシア古典舞踏の披露の後、歯科病院見学を私と歯科理工学の柴田先生で引率しました。午後、病院見学後に馬場教授より歯科補綴学のセミナーを賜り、最後に昭和大学メンバーとの交流会を実施しました。今回のトリサクティの学生は全員女性でしたが、実際には男子学生もいるそうです。因みに 2 年前に、本学の学生が海外選択実習で訪れました。今後も、より活発な国際交流が期待されます。



歯学部オープンキャンパスが開催されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

令和元年 7 月 21 日(日)洗足キャンパス(歯科病院)にて歯学部オープンキャンパスが開催されました。天候もよく、当日は午前と午後の 2 回開催で合計 117 組 229 名に参加いただきました。

オープンキャンパスは榎歯学部長の開会の挨拶から始まり、富士吉田教育部金丸教授による「富士吉田での学生生活」、歯科薬理学高見教授による「歯学部教育の特色・2020 年度歯学部入学試験・卒業後の進路」についての全体説明会が行われました。その後、6 グループに分かれ美容歯科、地域連携歯科、顎顔面口腔外科への外来施設見学や矯正歯科による歯科患者ロボットを用いた歯科治療体験実習が実施されました。また、希望者には入試担当教員が個別面談を行い、参加者からは、「チーム医療についてとても感心しました。ぜひこの大学に入りたいです」「今日のオープンキャンパスで大学の雰囲気がよくわかりました。」

“寮生活が楽しそうだった。”との声が寄せられ、受験生の方へ本学の魅力を十分に伝えることができ、大好評のうちに終了しました。



オックスフォード大学 Summer session に参加しました 歯学部2年 奥田 晃平

今回私は今年から新しく始まったOxford大学のサマープログラムに参加しました。もともと私は海外の大学のシステムについて興味があったため、名門大学であるOxford大学の研修に行けると聞いてすぐに申し込むことを決断しました。この研修ではイギリス英語を実際に学ぶことができる上、普段はあまり馴染みのない異国の文化や美術にも触れられる絶好の機会だと思いました。



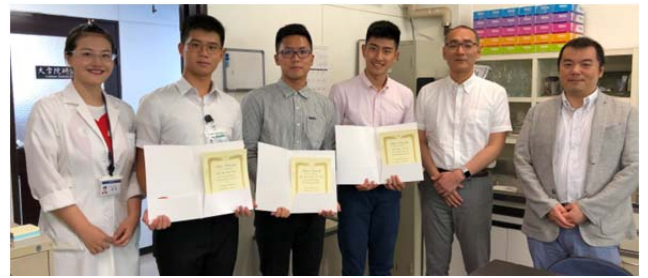
オックスフォードはロンドンから少し離れた学園都市であり、38のカレッジが点在しています。私達はその中のHartfordというカレッジで研修を受けました。授業は平日朝から夕方まで毎日あり、すべて英語での授業でした。授業では主に英語教育を専門とした先生がイギリスの文化や医療問題について、校外学習では現地の医学生・歯科医師・看護師がそれぞれの視点から医療の現状や制度についてレクチャーをしてくれました。イギリスの授業では日本の受動的なものとは異なり、積極的な発言が求められ、ペアで話し合い意見を共有することが多く、どの授業も刺激的でとても頭を使いました。

短期とはいえ、外国へ行き、未知の文化や考えに触れたことは大きな経験だったと思います。医療制度や社会問題について学び、同じ先進国でも問題になっている事柄とそれに対する対策法が全く異なっていることなどを知って、広い視点で考える重要性を感じました。例えばイギリスのNHS(National Health Service)は国が医療費を全額負担してくれるシステムですが、眼科・歯科・処方箋薬はNHS対象外ですべて自己負担です。日本・イギリスのどちらかが正解というわけではなく、対策法の多様性や日本での制度が当たり前ではないことを実感しました。

今回の研修ではもちろん勉強ばかりではなく他の学生との交流やロンドンでの観光も充実していました。Oxfordの学生だけでなく、中国の留学生とも自然と友達になりました。そのため帰国後には海外ニュースにいつそう興味がわき、外国のことが身近に感じられるようになりました。そして、私の今の環境に感謝してもっと勉強しなければとも思うようになりました。今後はこのプログラムを経て感じた、世界の広さと自分の実力の不甲斐なさをバネに、英語力を磨くとともに幅広いことに挑戦したいです。

今回私は今年から新しく始まったOxford大学のサマープログラムに参加しました。もともと私は海外の大学のシステムについて興味があったため、名門大学であるOxford大学の研修に行けると聞いてすぐに申し込むことを決断しました。この研修ではイギリス英語を実際に学ぶことができる上、普段はあまり馴染みのない異国の文化や美術にも触れられる絶好の機会だと思いました。

台北医科大学の学生が来学しました 国際交流担当 桑田 啓貴



7月22日から26日までの日程で、姉妹校の台北医科大学の歯学部学生が歯科病院見学に訪れました。今回は4年生の学生が3名、訪問してくれました。台北医科大学側の要請に基づき、矯正歯科(昭和花子見学舎)、歯周病科、歯内治療科、歯科麻酔科、顎顔面口腔外科、口腔腫瘍外科、補綴歯科(デジタルラボ舎)などの診療科の見学に加えて、基礎系ラボの見学などを行いました。台北医科大学からの訪問ということもあり、歯科理工学の柴田先生と中国からの留学生、周さんにもご助力いただき、特に周さんには中国語の通訳もお手伝い頂きました。また、今回から、新しい試みとして、昭和大学OBの歯科医院(今回は大田区にあるおおわだ歯科)の訪問も組み入れました。台北医科大学の学生には多くの経験をしてもらうことが出来ました。

台北医科大とは古くより、緊密な国際交流関係が構築されており、近年は相互訪問が毎年継続しています。毎回ですが、台北医科大学の学生には昭和大学ツアーは好評です。夏期になると、トリサクティなど、多くの姉妹校からの学生訪問の希望を受けていますが、ひとえに多くの診療科、研究室のご協力の賜物と存じます。お忙しい中、誠にありがとうございます。



編集後記 歯科放射線医学部門 松田 幸子

学生さんや先生方の熱血記録をお届けします。先生方が頭に汗をかいて練り上げた教育方法、学生さんたちの貴重な経験が、歯科医療や教育の未来に大きく役立つくれることと思います。執筆頂いた皆様に感謝です。